

1 教育目標

- | |
|--|
| (1) よく考え 本気で学ぶ子ども
(2) 元気で たくましい子ども
(3) 思いやりがあり 助け合う子ども |
|--|

2 学校経営の方針

- | |
|--|
| (1) 新しい時代に必要な資質・能力を身に付けさせるという学習指導要領の趣旨を踏まえ、指導と評価の一体化による「主体的・対話的で深い学び」を目指した授業改善に努め、「学ぶ喜び」を味わわせる。
(2) 児童の様子を児童・生徒指導、教育相談、特別支援教育の3つの視点から総合的に見取り、関係機関と連携しながら、一人一人の特性に適した支援を行う。
(3) 危機管理の観点から、児童の危険回避能力の育成に取り組み、問題行動や事件・事故の予防に努める。
(4) 健康教育の充実を図り、地域・家庭と連携して心身共に健康な児童の育成を図る。
(5) 特別活動や総合的な学習の時間を中心にふるさと学習とキャリア教育を推進し、ふるさとに誇りを持ち、ふるさとを支える人材の育成に努める。
(6) コミュニティスクールの導入に向けて、地域とともにある学校づくりの一層の推進を図る。 |
|--|

3 今年度の重点目標

(1) 確かな学びを育む	①学習指導要領の趣旨を踏まえた指導と評価の実施 ・ねらいの明確化による指導と評価の一体化 ・授業改善による「学ぶ喜び」のある授業 → 先生の授業は分かりやすい 90% ②個々の特性に応じた適切な支援 ・TT、ユニバーサルデザイン、ICT機器を活用した授業の実施 → 各教科(国・社・算・理・生・外)の学習が好きな児童 80% ③主体的な学習習慣の確立 ・家庭学習の時間の確保と学習内容の充実 → 宿題や自主学習への取組 80%
(2) 豊かな心を育む	①学校・家庭における読書活動の推進 ・学校司書との連携による読書指導 → 本を読むことが好きな児童 80% ②いじめ等問題行動の未然防止 ・道徳教育、児童・生徒指導の充実 → 学校生活が楽しい児童 90% ③自分の生き方を考えさせる指導の充実 ・ふるさと学習とキャリア教育の推進 → 将来の夢ややりたい自分がある児童 80%
(3) 健やかな体を育む	①健康的な生活習慣の確立 ・「早寝・早起き・朝ご飯」の推奨 → 実行した児童 85% ②体力・運動能力の向上 ・体力向上プログラム活用による課題克服 → 新体力テストB以上の児童 40% ③安全・防災教育の充実 ・訓練を通じた危機回避能力の育成 → 安全・防犯・防災知識の定着 95%

4 評価表

評価の「A」は優れている、「B」は良い、「C」は改善の余地あり、「D」は要改善

項目	具体的評価指標	自己評価			学校関係者評価 学校評議員	達成状況 成果○と課題▲
		児童	保護者	教職員		
教育課程	①学習指導要領の実現を目指し、児童や学校の実態、保護者や地域の意見要望等を踏まえた創意ある教育課程を編成・実施した。			B	B	<p>※学校評議員の意見はゴシック体で記載。</p> <p>○よく努力していると思う。 ▲授業改善に取り組みたいという思いは強いが、教材研究の時間がなかなかとれず、十分な準備ができないまま授業に入ってしまうということが多かった。 ▲授業改善の難しさを感じる。様々な実践例も紹介されているが、取り入れたいと思う反面、なかなかできない現状である。 ▲学び合いを実践するのが難しく、学力を身に付けさせるにはまだまだ改善が必要である。参考書を読んだり、他の先生の授業を見たりして学んでいきたい。</p>
学習指導	①「主体的・対話的で深い学び」を実践し、学習意欲を向上させた。 各教科（国・社・算・理・生・外）の学習が好きな児童 80%	A		B		<p>○研究授業や授業研究会を通して、個別最適な学び、協働的な学びに結びつくような各教科での実践を提示することができた。今後、それを他学年や他教科に広げていく必要があると思う。</p>
	②指導と評価を一体化した授業の展開により、「分かる授業」が実践できた （先生の授業は分かりやすい 90%）	A	A	B		<p>○更に一步上を目指してもらいたい。</p>
	③主体的な学習習慣が確立できた。（家庭学習の時間の確保、家庭学習の内容の充実、児童の取り組み状況等） （宿題や自主学習への取組 80%）	A	B	B	A	<p>○発達段階において、自分だけで自主学習に取り組むことはまだ難しいが、保護者の協力を得ながら、自主学習に取り組むことができるようになってきた。担任が「今日のおすすめの自主学習」を提示すると、復習として取り組む児童も多くなってきた。 ○以前より取り組む児童が増えた。 ○継続して意欲的に取り組めるよう、家庭学習チェック等があると思うが、家庭学習はマンネリ化してくるので、何かやる気のできるきっかけづくりがあると、さらに意欲がプラスされると思う。 ▲自主学習に関して、児童への啓発が足りず、ただ課題を出すのみとなってしまった。 ▲自主学習は、児童の取組に個人差が見られる。</p>
	④読書活動の充実（学校司書との連携、図書室の積極的な利用）と家読の推奨を実施した。 （本を読むことが好きな児童 80%）	B	B	A		<p>○業間、昼休みの開放により、自分から本を借りに行く児童がたくさんいた。分散したのもよかったと思う。 ○読書月間中は、物語などの読み物を読むように奨励した。結果、読む児童が増えた。 ○図書館司書が来校している日を自分たちで確認して、図書室に行く児童が増えた。教室内に様々なジャンルの本を置いておくことで、興味をもって本を手取る姿がたくさん見られた。 ○業間、昼休みにも児童が図書室に行く姿が見られるようになった。 ○司書教諭が並行読書の本を揃えてくれるので、とても助かっている。 ○毎週の本の貸し出しを行った。 ○授業では、図書室の資料を使って自分のテーマに沿った調べ学習をした。 ○読書の重要性は以前から言われているが、これからの時代には、特に大切になるかもしれないので、これからも重点をおいて指導してほしい。 ▲図書の出が十分ではなかった。 ▲調べ学習は、タブレットを活用することが多かった。</p>

学習指導	<p>⑤ H24 から始まった小学校英語教育特区（現 教育課程特例校）の効果について→1・2・3・4年が外国語活動を実施してきたことで外国語活動に対する興味関心、外国語の表現への慣れ親しみ、コミュニケーション能力の育成が十分図られている。</p>	A	A		<p>○英語教育が、読む書くから、話すことを大事にする方向になっていると思うので、その点を重視してもらいたい。</p> <p>○中学校の英語の授業、テスト等につながるよう、中学校と連携してほしい。</p>
キャリア教育	<p>①地域素材を生かした体験活動を実施することで、キャリア教育の視点を生かしたふるさと学習の充実に努めた。</p> <p>(将来の夢やなりたい自分がある児童80%)</p>	A	A B	B	<p>○友愛作業所見学を行うことができた。そのほかにも宿泊学習や社会科校外学習を通して、地域素材を生かした体験活動を進めていった。</p> <p>○地域素材や人材の活用として、社会科校外学習で陶芸メッセと益子参考館の見学を実施した。児童は益子焼や濱田庄司に大変興味をもつことができた。</p> <p>○町探検を通して、学校の周りにはどんなものがあり、どんな人たちが働いているのかを知るきっかけになった。今年度は多くの施設や保護者にも協力してもらうことができ、有意義な学習となった。</p> <p>○校外学習で、農家、消防士、警察官の話聞く際に、この視点も取り入れた。「どうして」「どのような思いで」という質問を取り入れることで、ふるさと学習につながった。</p> <p>○少しでも早く目標がもてるように、キャリア教育の充実に努めてほしい。</p> <p>○今後、コミュニティースクールで、更に充実していけたらと思う。</p>
児童指導	<p>①「学業指導の充実に向けて」（県教委）に基づいた、規範意識や基本的な生活習慣を身に付けさせる指導を適切にしている。</p>	A	A B		<p>▲月別生活目標やコミュニケーションワークなどを月ごとに呼びかけ、結果を集計した。集計結果のフィードバックが十分ではなかった。</p> <p>▲学業指導につながるか分からないが、「よい子のきまり」への意識が全体的に下がっているように感じる。</p>
	<p>②教育相談や児童の観察を定期的に行い児童の小さな変化を見逃さず、問題行動の早期発見に努め、児童指導の充実が図られた。</p> <p>(学校生活が楽しい児童90%)</p>	A	A B	A	<p>○先生方がよく児童を観察し、児童の困り感を理解しているのできめ細やかな指導ができています。</p> <p>○児童の様子や表情の変化をできるだけ捉えるように心掛けて接してきた。結果、いくつかの問題を早期に解決することができた。</p> <p>○学校生活が楽しいことが第一なので、誰もが楽しい学校生活を送れるように、更に努力をお願いしたい。</p> <p>○中学校へ進学後の環境の変化に、対応して欲しい。</p> <p>▲教育相談は行ったが、月ごとの児童指導アンケートの結果を生かした児童からの聞き取りと、その後の指導がおろそかになってしまった。</p> <p>▲教育相談週間に、他の行事等が重なっていて、落ち着いてできなかった。外を見る先生も手薄になってしまうので、なるべくだったら重ならない方がよい。</p>
	<p>③組織的に児童指導に取り組み、関係機関と連携しながらチームで支援ができた。</p>	A	A B		<p>○SSW、SC等専門の方のアドバイスをいただきながら、児童への対応をすることができた。</p> <p>○学校生活への困難さを抱える児童、保護者に対し、SSW、SC、専門医などにつなげたり、各検査を実施したりして共通理解をもって支援することができた。</p> <p>○SSWが積極的に入ってくださることで、適切な支援ができ、とてもありがたかった。</p> <p>○コーディネーターやSSWとの相談がとてもしやすいので助かっている。ただ、その分、コーディネーターやSSWの負担は増えていると思う。</p> <p>▲連携しての活動が不十分であった。</p>

特別支援教育	<p>①全職員の共通理解の下に、校内支援体制を適切に整備し、特別支援教育についての理解を深め、適切な支援を行った。</p> <p>※個々の特性に応じた適切な支援、ユニバーサルデザインによる授業の実施、個別の指導計画、関係機関等との連携</p>			B	B	<p>○教職員が一丸となって、対象児童への支援に当たられた。</p> <p>○特性に応じた対応を工夫されている様子が分かった。</p> <p>○ニーズ等も多様化していると思う。困ったときは、全職員での対応の検討も必要だが、その他、町、芳賀地区、県にも相談できる場所があるので、活用していただければと思う。</p> <p>▲転入した児童が日本語が不十分であったのに、その支援が十分とはいえなかった。</p> <p>▲いつ、だれが、どこで、の支援体制が不明瞭だったので、分かりやすい支援体制の構築に努めたい。</p> <p>▲教職員全体で共通理解をもって支援を実施している。なかなか保護者の理解が及ばない場合がある。</p>
保健管理	<p>①児童の心身の健康的な生活習慣確立のために適切な指導管理を行った。</p> <p>※日常の健康観察、健康診断環境衛生検査等</p>			B		<p>○月例環境衛生検査の実施、結果を踏まえ、各担任が児童にきめ細やかに指導をしている。</p> <p>○月例環境衛生検査等で児童の家庭生活について調査をし、十分でないところを担当から指導をしている。</p> <p>○環境衛生検査では、個人の自己評価シートの結果から個別に声を掛けたことで改善が見られた。</p> <p>▲あいさつ面が少し弱いと思う。あいさつじゃんけんなどの工夫を取り入れることで、盛り上げようとしているが、学校全体で見直す必要がある。</p>
	<p>②感染症に関する衛生管理マニュアルを踏まえ、健康管理と環境整備を実施し、感染症予防の徹底を図ることができた。</p>			A	B	<p>○給食時の嘔吐に対する対応法の仕方など給食主任を中心として、共通理解したり、児童の健康状態を常に留意し、学校での活動を行ったりしていることで、大きな感染の拡大には至らないでいる。</p> <p>○感染症予防については、早期発見、早期の対応で学校全体の感染の発生はなかった。</p> <p>○5類に変わったことにより、以前よりは予防の徹底が図りづらくなったが、給食指導や外から帰ったときの手洗いうがい消毒は継続して行い、感染症予防に努めている。</p> <p>▲5類移行に伴って、手洗いが不十分になってしまった。</p>
	<p>③体力向上プログラムを活用し、個に応じた体力づくりの推奨に努めた。</p> <p>(新体力テスト B 以上の児童 40%)</p>			B		<p>○運動タイムは、児童の食いつきがよくなるような工夫をし、児童の体力向上に向け努力している。</p> <p>○子どもたちは、縄跳び練習台で自主的に縄跳びを楽しんでいる。楽しんで取り組むことで、結果的に体力が向上するのではないかと。</p> <p>○準備運動などで、体力向上プログラムを取り入れた。持久走カードが今年から変更になり、個人差はあるが、子どもたちが自主的に取り組む姿が見られた。「やってみよう」と思えるようなしなやかさはとても大切だと感じた。</p> <p>○体力向上プログラムの推奨はできなかったが、各季節に応じたカードや環境作りに努めてきた。</p> <p>○体力低下が全国的に見られるので、向上に向けて努力してもらいたい。</p>
安全管理	<p>①全職員の共通理解の下に、教職員及び児童生徒の安全対応能力の向上に努めた。</p> <p>※危機管理マニュアルの活用、安全点検、避難訓練、防犯教室、交通安全教室</p> <p>(安全・防犯・防災知識の定着 95%)</p>	A	A	A	A	<p>○廊下の歩行の状態など、常に全職員で児童を見守り、適切な指導をしている。</p> <p>○危険箇所を児童が自ら発見したり、地震発生時など安全に身を守る行動ができたりと、児童には安全対応能力が身に付いている。</p> <p>▲事前指導や事後指導をもう少し丁寧にできればよかった。やりっぱなしになってしまったと反省している。</p>
<p>②児童の登下校の安全確保に努めている。</p> <p>※スクールガードとの連携</p>	A	A	B	B	<p>○交通指導員、スクールガード、地域の皆さんが、子供たちの安全を考え、指導や言葉掛けを行ってくださっている。とてもありがたい。</p>	

組織運営	①学校経営方針の具現化のために校務分掌や各主任の役割が適切に機能するように努めている。 ※全職員の参画意識、良好な人間関係と協力体制、情報管理等			B	<p>○全職員が自身の校務分掌の責務をはたしていることに加え、誰がやってもいい、また誰かがやらないと困るような隙間の仕事にも進んで取り組んでくれている様子がうかがえる。</p> <p>▲主任になると、自分だけで仕事をしてしまいがちである。今後につなげることも考え、伝えていくことも必要であると思う。</p> <p>▲主任の方に負担をかけてしまった。自主的に業務をこなせるよう努めたい。</p>	
	②効率のよい業務を行うよう努めている。 (超過勤務時間 月80時間以下)			B	<p>▲初めての校務分掌のためか、効率よく業務を進めていくことができず、期日に間に合わないこともあった。</p> <p>▲効率よく仕事を進めることができなかった。今年度は新たに担当になった人が多く、記録をしっかり残していくことが、次年度の効率的な業務につながるのではないかと思う。</p> <p>▲勤務時間は減ったが、教材研究よりも事務的な作業が優先になってしまった。教材研究や授業の準備が十分にできなかった。</p>	
研修	①学校課題解明のための授業研究を計画的に行い、授業改善に努めている。			B	B	○学校課題の解明に向け、「めあて」や「ふりかえり」など、児童の意識が高まるよう働き掛けた。
情報提供	①学校に関する様々な情報が、保護者や地域住民に、十分に分かりやすい内容で、かつ適切な分量を提供している。 ※学校だよりや学年だより、学校ホームページの公開等		A	A	A	○ホームページの更新がこまめに行われているので、保護者の側からしても、親しみのあるホームページとなっているのではないかと。
保護者・地域との連携	①保護者や地域への積極的な情報発信や諸活動を通して学校、保護者、地域の連携に取り組んでいる。 ※授業参観、運動会等の学校行事、地域の人材活用、PTAとの連携等		A	B	B	<p>○ほかではあまり見られない地域の人材をワークショップで活用することは素晴らしいと思う。</p> <p>○地域との連携は、これからも十分に行ってほしい。</p> <p>▲忙しくても、1学期末に授業参観をやった方がよかったのではないかと。</p> <p>▲学年行事の時期や内容の検討が必要である。</p> <p>▲運動会の後の片付け、奉仕活動、PTA講演会など、PTA活動への関心の低さが気になる。</p>
教育環境整備	①施設の維持・管理・補修が適切に行われ、教材・教具・図書の整備を適切に行っている。			A	A	<p>○教室配備の電子黒板は先生方が自分の手足のように操っている様子がうかがえた。</p> <p>○今まで気が付かなかったところまで、修復している姿を見かける。安全のための配慮が素晴らしい。</p> <p>○学校内外がいつも整備されているので安全に教育活動が実施できている。危険箇所、故障部位などの復旧、修繕にも早急に対応してもらえるので不備、不具合なことが少なくなった。</p>

5 次年度へ向けて（学校評価を受けて）

- (1) 学習指導要領の実現を目指し、授業改善に努めているところである。新型コロナウイルスの5類移行に伴い、「主体的・対話的で深い学び」に向けたペア・グループ活動、協働的な学びも多く取り入れられるようになり、児童の知識の定着もより深まってきている。アンケートの結果から、「先生の授業は分かりやすい（95.1%）」と答える児童の割合は高い。教材研究の時間の確保や研修等、さらに力を入れていきたい。
- (2) ワークショップやサツマイモ堀り、図書ボランティアや校外学習、保護者ボランティア（学年行事）など、地域素材を生かした体験活動を実施することで、キャリア教育の視点を生かしたふるさと学習の充実にも努めた。アンケートの結果から、「将来の夢や希望をもっている（90.0%）」と答える児童の割合は高いが、今後も、ふるさと学習の視点をより意識した取組を行っていきたい。
- (3) 特別支援教育についての理解を深め、適切な支援を行えるよう、校内支援体制の整備にも努めた。職員全体での共通理解はもちろん、保護者との情報共有、外部機関との更なる連携を図りながら、児童一人一人の特性に応じた適切な支援が行えるよう取り組んでいきたい。
- (4) 教科体育での準備・導入運動など、「体力向上プログラム」を活用し個に応じた体力づくりに努めた。全国的にも体力の低下が懸念されているが、運動タイムを設定し場面を工夫することで、児童の運動への関心を高めることができた。特に、なわ跳びジャンプ板を設置することにより、寒い時期ではあるが児童の意欲も高まり、体力づくりの一助となった。今後は、運動が苦手な児童への働き掛けを更に工夫していきたい。
- (5) 職員の「効率のよい業務」に対する意識改革にも努めた。業務の振り分けによる平均化等が進められているが、仕事量も多く意識改革だけでは対処できない課題も残されている。コロナ禍以前の活動も戻りつつあるので、行事の精選や内容の改善にも努めていきたい。
- (6) 保護者や地域への積極的な情報発信にも努めた。アンケートの結果から、「学校は授業公開やおたよりを通して教育活動を適切に伝えている（98.9%）」と答えた保護者の割合は非常に高いが、PTA関連の行事の再開にあたり、感染症対策等も考慮した上での再考の時期を迎えている。社会に開かれた教育課程の実現とのバランスも考えながら、保護者や地域との連携を更に進めていきたい。